

会 議 名	第2回港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託 事業候補者選考委員会
開催日時	令和5年6月15日（木曜日）午後1時30分から午後3時まで
開催場所	港区役所保健福祉支援部会議室
委 員	保健福祉支援部長 山本 睦美（委員長） 高齢者支援課長 白石 直也（副委員長） 麻布地区総合支所管理課長 佐々木 貴浩（委員） リモートにて参加 介護保険課長 安達 佳子（委員） みなと保健所健康推進課長 二宮 博文（委員） リモートにて参加
事 務 局	高齢者支援課介護予防推進係
会議次第	1 開会 2 第1回港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者選考 委員会議事録について 3 第一次選考結果について 4 第二次審査スケジュール等について 5 第二次審査採点基準表について 6 閉会
配付資料	[席上配付] 次第 資料1 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者選 考第1回委員会議事録 資料2 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者選 考第一次審査集計表 資料3 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者選 考第二次審査日程表 資料4 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者選 考採点表 参考資料 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者 の選考 スケジュール及び審査方法等について 参考資料 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者 選考基準 参考資料 港区（仮称）健康長寿アプリ開発・運営業務委託事業候補者 選考に関する質問への回答

会議の内容	
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 第1回港区(仮称)健康長寿アプリ開発・運營業務委託事業候補者選考委員会議事録について</p> <p>3 第一次選考結果について</p> <p>～第1次審査結果講評～</p>
B 委員	<p>B 者は、高齢者向けの工夫が明確でないため、低めの評価となりました。</p> <p>C 者は、高齢者の見守りという提案や区内地元商店との連携等今後の展望、11月に運用開始可能であることを評価しました。しかし、インセンティブは、実現性や効果に疑問がありました。</p> <p>D 者については、高齢者向けのデザインを高く評価しました。ランキング、健康アドバイスの取組も評価しました。また、インセンティブに関しては選択方式の提案や、過去の実績を踏まえて当選確率を高め設定している所を評価しました。</p> <p>E 者については、高齢者向けか否かを踏まえての評価としました。インセンティブを利用した継続のための取組については、妥当性の観点から、低めの評価としています。</p> <p>F 者については、実績を高く評価しました。合わせて、アプリ自体の効用を高める取組は非常に明確と感じました。</p> <p>G 者については、11月からの前倒し運用が可能であることや、無関心層を巻き込む仕掛け、一緒に運動する人の存在の必要性を啓発する等の提案は非常に魅力的でした。管理者へのフォロー体制やインセンティブの内容も評価しました。</p>
C 委員	<p>B 者については、画面の見やすさと使用感の良さを評価しました。</p> <p>C 者については、体制は詳細に記載されていますが、タスクリスクの記載のみと感じました。画面の展開など見にくさも感じたため、低めの評価をしています。インセンティブ提案は、内容は多彩でしたが、「市」や「市内団体」との文言が多数あり、港区は「区」であるため、正確性に懸念を感じたこと、方式の手間が気になりました。</p> <p>F 者については、コールセンターなどフォロー体制が明確に記載されていることを踏まえ評価しています。</p> <p>G 者については、資料が非常に見づらい綴じ方をされており、それも含めた評価としています。</p>

<p>D 委員</p>	<p>B者については、アプリ画面の見やすさ、イベントについて評価しました。</p> <p>C者については、若年向け画面だと感じました。インセンティブの提案は、評価できます。</p> <p>D者については、利用継続のための機能を評価しました。しかし、提案された機能連携は時期尚早ではないかと思えます。健康アドバイス機能は魅力を感じました。</p> <p>E者については、提案されたインセンティブの構築に関するノウハウについて懸念を感じました。また、インセンティブの付与方法が2種類あるため、高齢者の混乱を招くのではないかと感じました。</p> <p>F者については、画面がシンプルで見やすいこと、関連の動画コンテンツが動機づけとして有効と感じました。また、コミュニケーション手段は、励みになると感じました。</p> <p>G者については、活用可能な区の資源をよく調査している点を評価しました。また、インセンティブは、社会貢献活動によって社会参加を実感できる内容と、実施実績を評価しました。アプリ上のグルーピングの方法が明確に記載されておらず、ヒアリングが必要と感じました。高齢者同士の交流や、グループ等で仲間意識を醸成するための提案など、アプリだけでない付加価値を評価しました。</p>
<p>E 委員</p>	<p>B者については、既存のフォームを活用することによる、開発のスピード感を評価しました。また、ポイントの獲得を健康づくりに活かす仕組みは、有効だと感じました。高齢者に向けての対面サポート提案も確実性があると感じました。</p> <p>C者については、具体的なスケジュールの記載が見受けられず、その部分を踏まえた評価にしました。環境問題と連動した取組の提案は、最近のトレンドに合わせた面白い試みだと思います。しかし、フレイル予防が一つに偏ったオペレーションであることが気になりました。また、提案のインセンティブでは、自社への誘導になる可能性があると感じました。</p> <p>D者については、広報に至るまでの詳細なスケジュール提案を評価しました。先ほど他の委員からもありましたが、連携については時期尚早ではと思います。インセンティブは、多様な種類が、利用者目線の提案だと思います。ただ、高齢者向けの特典かどうかは微妙なところですが。また、経費も比較的高額です。配布する金額と頻度について不明確だったため、一次審査結果次第でヒアリングしたいと思えます。</p> <p>E者は、歩数測定に特化した機能と、ロコモ度チェックをアプリにどのように反映させるのかが不明確でした。イベントに特化した場合、連続した企画が必要となり、継続性という視点でやや不安な要素があります。また、コールセンターの具体的な人員体制の記載がなかった点も気になりました。そ</p>

<p>A 委員</p>	<p>の辺りを踏まえた評価をしています。</p> <p>F者については、PDCAサイクルに基づいた事業設計がされており、既存のシステムを上手に活用されていると思います。ただ、動画コンテンツの使用方法が高齢者向けではないと感じたこと、コールセンター機能も一般的で、高齢者向けの工夫が不足と感じ、そこを踏まえた評価をしています。</p> <p>G者については、社会との接点を持ち続けるという、明確な方針が打ち出されており、シンプルで明確と感じました。コミュニケーション機能は使用ルールが必要であると思います。また、コールセンターにおける電話対応のプラスアルファの部分で、マンパワーが必要となる点が気になりました。インセンティブに関する提案でのリアルイベントの運営は方法にもよりますが、評価できると感じました。</p> <p>B者については、全世代向けの健康アプリというイメージを強く感じました。数値の見える化などは評価できますが、もう少し介護予防という視点が必要と感じました。機能過多で高齢者には混乱を生じさせる懸念があること、画面情報が多く画面の字が小さいところが気になりました。</p> <p>インセンティブは獲得条件が厳しく、達成感が生じにくいと感じました。</p> <p>C者については、全体的に高齢者向けの介護予防、フレイル予防という観点が必要不足していました。環境問題が前面にでており、高齢者向けではない点を踏まえ低めの評価をしています。</p> <p>D者については、ウォーキング機能のランキング等付帯部分の取組を評価しました。介護予防の継続に向けた取組も、効果が期待できると感じました。インセンティブは、価格帯と当選確率の考え方を評価しました。</p> <p>E者については、資料で画面のイメージが掴めず、高齢者にとって見やすいアプリかの判断が困難でした。また、ロコモ度テストは興味深いものの、全体的にもう少し介護予防の観点が必要なこと、試用期間中の内容の記載はありましたが通常運用となった場合のテストを行うタイミングが不明だったため、その部分を踏まえ評価しています。</p> <p>F者については、独自提案のコミュニケーション機能は評価できますが、この機能の頻度や内容について、少々懸念が残りました。また、コールセンターは一般的で、高齢者向けのイメージではないと思いました。</p> <p>G者については、グループでの参加提案は非常に評価できます。リアルとデジタルのハイブリッドの活用については、予算配分を工夫してはいますが、経費の妥当性が気にかかります。インセンティブが社会貢献になる提案は、評価できるアイデアだと思います。ただ、その継続性と、実現性は懸念があります。住民サポーター育成は、大変評価できる提案ですが、既存のボランティア等との関係は、整理していく必要があります。</p>
-------------	--

委員長	それでは、各委員による講評を踏まえて、各委員の点数に差があった項目について、各委員の意見を伺います。
委員長	B 事業者から進めます。アプリ機能の業務内容の理解度についてです。
B 委員	高齢者向けか否かで採点しました。ただ、標準的なことは事実であると再認識したため再評価します。
C 委員	高齢者向けというより、標準的な内容として評価したため、再評価します。
委員長	次に C 事業者の企画提案書の計画内容についてです。
B 委員	配置計画のスケジュールが明確になっており、従事する予定者の指示・命令の業務体制が明確と感じ評価しました。
C 委員	スケジュールについて、タスクリスクは記載されていますが、具体的な期間の記載がされていないという視点で低めの評価となりました。
事務局	様式 8 にスケジュールの記載があります。突き合わせると実施体制とスケジュールが完成します。
B 委員	様式 6 でスケジュールが適切かを確認すべきであるため、再評価します。
委員長	続きまして、アプリ機能の実施体制の的確性についてです。
B 委員	スケジュールに連動した実施体制は基本的に評価しています。それが妥当か否かを含め再評価します。
C 委員	様式にスケジュールの記載がなかったため、低めの評価としました。
D 委員	様式どおりの提出ではないことを考慮し、再評価します。
E 委員	先ほどと同様の理由で、スケジュールが明確に所定の様式内に落とし込まれていないための評価です。様式 8 のスケジュールと、その他企画提案等の内容で理解はできますが、それでは趣旨と違うと判断し、低めの評価としました。
委員長	次にインセンティブの魅力度についてです。

D 委員	インセンティブのリアルイベント開催によって、高齢者の外出に繋がると 思い、評価しました。
C 委員	評価の理由ですが、インセンティブについて、地域イベントと連携とあり ますが、正確性に懸念があります。また、実現性や内容の妥当性等を考え、 低めの評価としました。
D 委員	実現性を踏まえ、再評価します。
委員長	次に追加提案についてです。
D 委員	高齢者向けアプリのため、操作性の煩雑さ等を考慮し、再評価します。
委員長	続いて、F 事業者のコールセンター管理運用体制の充実度についてです。
E 委員	オペレーションコールセンターの運営体制自体は標準的で問題ないと思 います。高齢者に対するフォロー体制として、もう少し高齢者目線、高齢者 にふさわしい対応が必要ではないかと思い、低めの評価をしていますが、標 準的なスペックは満たしていると考えため、再評価します。
委員長	次に F 事業者の追加提案の魅力度についてです。
A 委員	多様なポイント付加企画等によってやる気を引き出し、利用継続につなげ る提案を評価しました。また、インセンティブに今後の展望があると考えま したが、実現性が乏しいため再評価します。
委員長	次に G 事業者について、アプリ機能の業務内容の理解度についてです。
C 委員	資料の煩雑さによって、低評価としましたが、業務内容の理解度に異議は ないため、再評価します。
B 委員	最も高齢者向けだと思いました。介護予防、フレイル予防の理解度が高く、 高評価としました。しかし、実現性等の意見を受け再評価します。
委員長	次にインセンティブの魅力度についてです。
C 委員	インセンティブ経費の妥当性等、提案金額と地域資源の利用方法に懸念が あります。様式7のインセンティブ経費が直接経費で、令和6年度以降非常

	<p>に高額になります。その他経費も初年度に比べ、翌年度以降は高額になります。様々な提案は評価できますが、経費面での継続性と、インセンティブばかりが目玉になってしまう懸念があり、このような点数をつけました。</p>
B 委員	<p>インセンティブ経費のみ見れば、費用対効果が非常に高いと感じましたが、直接経費がインセンティブ経費と理解できたため、再評価したいと思います。</p>
D 委員	<p>ライセンス更新費用も直接経費に含まれており、直接経費全てがインセンティブ経費ではないと思います。</p> <p>ただ、経費への懸念の意見を踏まえても、提案自体は良いと思います。</p>
委員長	<p>最後に、追加提案の魅力度についてです。</p>
A 委員	<p>住民サポーターの育成が非常に興味深く、今課題になっている担い手の育成においても活用できるのではないかという思いも込めて、高評価としました。</p>
B 委員	<p>このサポーターの育成というところが、非常に区の政策とマッチしていると思いました。</p>
C 委員	<p>コールセンターの運営体制と混同していたため、再評価します。</p>
D 委員	<p>この住民サポーター育成の提案は評価しています。</p>
E 委員	<p>インセンティブの考え方として、実施の継続性が大切だと思います。確かにサポーター育成など、非常に良い提案ですが、認知症サポーターキャラバンやゲートキーパーの育成など、様々なサポーター制度が乱立している中で、継続性について懸念があったためこの評価となっています。</p>
委員長	<p>再評価の結果を確認します。</p> <p>(事務局より修正後の一次審査採点表を配布)</p>
委員長	<p>A事業者が637点、B事業者が744点、C事業者が644点、D事業者が747点、E事業者657点、F事業者が742点、G事業者が789点となりました。この評価でよろしいでしょうか。</p> <p>(委員一同異議なし)</p>

委員長	<p>では集計の結果、1位はG事業者、2位がD事業者、3位がB事業者、4位がF事業者となりました。一次審査通過事業者ですが、募集要項では3者程度としております。4位まで700点超えとなりました。一次審査結果を踏まえ、何者を一次審査の通過とするかご意見はありますか。</p>
B 委員	<p>集計結果では、3位のB事業者が744点で、F事業者が742点、その差が2点です。3位と4位が非常に僅差ということもあり、F事業者も含めた4者で二次選考してはどうかと考えますが、皆様のご意見を伺いたいと思います。</p> <p>(委員一同異議なし)</p>
委員長	<p>それでは、4者を二次選考の対象とします。</p>
事務局	<p>4 第二次審査スケジュールについて 5 第二次審査採点基準表について</p>
委員長	<p>事務局から、第二次審査は1者ごとに審査表の回収をしたい旨の説明がありました。また、事業者の入室順について、通例では申請順であるABC順にお呼びしています。御意見・御質問はありますか。</p>
委員長	<p>それでは、1者ごとに審査表を回収させていただき、入室順について申請順のABCの順番とさせていただきます。</p> <p>(委員一同異議なし)</p> <p>6 閉会</p>